

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile Manufacturers Association
日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.52
2018 11 月号
[November]

特集

自動車税制改革、勝負、冬の陣
地方から自動車税制改正の動き
全国から6千人にのぼる声
「自動車税制改革フォーラム」が活動

「JAM BEYOND

モビリティがもたらす持続可能な開発



JAMA

一 股 日本自動車工業会
社団法人



2018年12月ー2019年1月 自動車関連イベント



国内主要イベント

日時	場所	名称
12月 2日	静岡県 富士スピードウェイ	NISMO FESTIVAL at FUJI SPEEDWAY 2018
9日	栃木県 ツインリンクもてぎ	Honda Racing THANKS DAY 2018
1月 11-13日	千葉県 幕張メッセ	東京オートサロン2019
16-18日	東京都 東京ビッグサイト	第11回オートモーティブワールド

海外モーターショー/主要イベント

日時	場所	名称
11月28日-12月1日	中国 上海	オートメカニカ上海
11月30日-12月9日	アメリカ ロサンゼルス	ロサンゼルス・オートショー
12月 1-9日	ドイツ エッセン	エッセン・モーターショー
6-9日	イタリア ボローニャ	ボローニャ・モーターショー
14-16日	ルクセンブルク	ルクセンブルク国際モーターショー
22-25日	中国 香港	e-EXPO&Auto HK 2018
1月 8-11日	アメリカ ラスベガス	CES2019
10-13日	オーストリア ウィーン	ウィーン・オートショー2019
12-27日	アメリカ デトロイト	デトロイト・モーターショー
16-19日	オーストリア ザルツブルク	AutoZum Salzburg2019
18-27日	カナダ モントリオール	モントリオール オートショー

JAMAGAZINE 2018年 11月号

発行日 平成30年11月30日
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
 広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会

特集

自動車税制改革“勝負”冬の陣

東京モーターフェス2018

自動車税制改革フォーラム

地方から自動車税制改正の動き

第45回国際福祉機器展H.C.R2018

CEATEC JAPAN 2018

交通安全ポスター原画コンテスト

2018年 秋の叙勲・褒章

「第31回国際電気自動車シンポジウム・
 展示会(EVS31)&EV技術国際会議2018
 (EVTeC2018)」開催

コラム BEYOND

モビリティがもたらす持続可能な開発

キャングローバル戦略研究所 上席研究員 杉山 大志氏

記者の窓

「自動車産業と群馬経済」 上毛新聞社 宮村 恵介



- 1 自動車税制改革
- 2 第45回国際福祉機器展H.C.R2018
- 3 CEATEC JAPAN 2018
- 4 交通安全ポスター原画コンテスト

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





特集

自動車税制改革“勝負”冬の陣



東京モーターウェーブ2018で開設した「みんなで声を上げよう!高すぎる!クルマの税金」ブースには、1万1200件の自動車ユーザーの生の声を書かれ、クルマのボディには130枚が貼られた

自動車産業は広範な関連産業を持ち、日本経済や雇用確保に大きく貢献する基幹産業です。しかしながら、自動車業界は、CASEなど技術の急速な進歩に加え、国内外の経済・社会情勢の変化、さらには自動車の使い方や自動車に対する意識までも大きく変化しており、自動車と自動車産業そのもののあり方が大きく変わろうとしている100年に1度の大変革期に突入しています。

そのような状況下、2019年10月の消費税率の引き上げが迫っています。国内市場はこれまで消費税引き上げのたびに100万台減、75万台減と市場規模の縮小が繰り返されてきました。更に来年の消費税引き上げにより国内市場は30万台減、厳しさを増す不透明な通商環境という新たな不安要素も加わって、経済損失2兆円、国内における雇用は9万人減と見込んでいます。そうすると、1000万台規模で推移してきた国内生産や研究設備の維持は極めて困難となり、日本経済に貢献する自動車産業が空洞化や衰退の危機にさらされることになりま

す。今後も、自動車産業が国内における雇用、生産研究開発体制を維持していくためには、国内市場の活性化が不可欠です。多くの自動車ユーザーは、自動車にかかる税金に負担感を抱いており、国内市場活性化のためには、自動車ユーザーの税負担を軽減し、自動車を購入・保有しやすい環境にすることが重要です。自動車ユーザーは、取得・保有・走行、それぞれの段階で9種類、合計8兆円もの複雑・過重な税を負担しています。この8兆円は国の租税総収入の約1割にもなります。自動車は、ぜいたく品ではなく、生活に欠かすことのできない必需品であり、地方では複数台を保有する世帯も多く、過重な税負担を強いられています。



記者会見で自動車税制改革の必要性を訴える豊田会長

自工会としては、平成31年度税制改正において、車体課税抜本改革見直しを実現すべく、「自動車税は国際水準である現行の軽自動車税を起点に引き下げること」「消費税引き上げによる自動車ユーザーの更なる税負担増を回避すること」を要望。特に自動車税の恒久的な引き下げを1丁目1番地に活動しています。自動車ユーザーのため、日本が健全で将来への夢を持てる国であり続けるため、活動しています。

東京モーターフェス2018 自動車税制改革フォーラム

「みんなで声をあげよう!高すぎる!クルマの税金」 ユーザーの声が多く集まった



来場者の書いたステッカーがブース内の壁、車一面に貼られていました



家族連れやカップルが書いたステッカーを手に持ち撮影に応じてくれました



「東京モーターフェス2018」会場内だけに、若者カップルや家族連れの来場者が多かった

■自動車ユーザーの本音

「東京モーターフェス2018」(10月6～8日)で、自動車関係団体が構成する自動車税制改革フォーラムが開設した「みんなで声をあげよう!高すぎる!クルマの税金」ブースに、来場者から自動車関連の税制に対する切実な意見、要望が寄せられました。クルマ好きが多く集まるモーターフェスの会場だけに、自動車ユーザーを中心に自動車関連諸税は「車は生活必需品 税金高過ぎ!」「クルマの税金何に使っているのか、わからない」など疑問や怒りの訴えが相次ぎました。

ブースには、さまざまな来場者が立ち寄り、自動車税制に関する意見をステッカーに書き込みました。ステッカーには「税金高い!若者だって車が欲しい!」「クルマの税金何に使っているのか分からない!」「はつきりしてよ!」「大切にしている古い車の税金を安くして!」「ガソリンの税金三重取りスルイ!」など、自動

車ユーザーの切実な意見が書き込まれていました。改めて自動車ユーザーに重くのしかかっている自動車諸税の現状を明らかにしたといえます。来場者が記入したステッカーは、ブースのメッセージボードや車両に貼り付けられ、ブース内はステッカーで埋まりました。

■若者や家族連れが目立つ

モーターフェス会場の中で、気軽に意見を書いてもらえるようにステッカーを用意したことから、若者やカップルなど、特に若い世代や家族連れが相次いで来場していました。

特集 自動車税制改革“勝負”冬の陣

地方から自動車税制改正の動き



千葉市での街頭活動

自動車ユーザーの団体である日本自動車連盟（JAF）が地方の主要都市で自動車税制改革に向けた街頭活動を展開。全国から自動車関連諸税に関する自動車ユーザーや市民と自動車総連の声を集め、自動車関連21団体からなる「自動車税制改革フォーラム」が連携して意見をまとめ、10月から11月にかけて全国47都道府県知事や関係部署に税制改正要望の活動を始めています。

全国47都道府県での街頭活動

JAF東京支部（舟橋竹彦支部長）は、JR田町駅前前で自動車関係諸税の負担軽減および簡素化を求める街頭活動を実施しました。日本自動車工業会や日本自動車販売協会連合会、東京都支部（大原一夫支部長）など「自動車税制改革フォーラム」に属する自動車関係団体が参加し、朝の通勤途中の会社員らにチラシ1500枚を配布しました。

車ユーザーの負担軽減を訴える街頭活動を展開しました。朝の通勤・通学者らにチラシセット700部を配布しました。また日本自動車販売協会連合会千葉支部（出野祥平支部長）、千葉県軽自動車協会（大木康正会長）、自動車総連千葉地方協議会の担当者らも参加しました。

（千葉）

当日は、舟橋支部長に加え、自販連の法規制委員長やJAF関東本部長を務める井上尚之、京トヨタ社長、全国軽自動車協会の堀井仁会長、JAFの矢代隆義会長、日本自動車工業会の矢野理事らも参加し、自動車関係諸税の抜本的な見直し要求に理解と支援を呼びかけました。

JAF栃木支部（小平雅久支部長）は、栃木県宇都宮市内の大型商業施設インターパークで栃木県自動車販売店協会、栃木県軽自動車協会、自動車総連とともに「自動車税制改正に関する街頭活動」を実施しました。訪れた買い物客らに500枚の啓

井上社長は「今回の活動を各方面に報告し、国民の声を届けます」として、12月の税制改革大綱につなげたい考えを示しました。

（東京）

JAF千葉支部（上出賢治支部長）は10月23日、JR千葉駅東口で自動車税制の簡素化と自動

車の税金は負担。ガソリンも高くて困ります」という意見が出るなど、同施設に訪れたユーザーからは税負担への不満の声が聞かれました。

（宇都宮）



甲府市での街頭活動

JAF旭川支部(藤富泰弘支部長)と自販連旭川支部(北村亮支部長)は10月30日、市内で自動車税制の見直しを訴える街頭活動を行いました。

(さいたま)

各団体と加盟企業の参加者が揃いの青のジャンパーを着て、「クルマの税金 根本的に見直すべき」と書かれたのぼりを掲げ、自動車税のユーザー負担解消のため「みんなで考えよう!クルマの税金」などと書かれたチラシを道行く人に配布しました。

JAF山梨支部(佐々木宏明支部長)は、甲府市のアイメッセ山梨で開催された新車ディーラー合同中古車フェアの会場において、佐々木支部長やディーラー代表者らが、自動車税に関する「2019年度税制改正に関する要望活動」に取り組みました。

「自動車に関する税金の軽減」

北陸3県のJAF各支部は、自動車ユーザーの税負担軽減を道行く会社員や買い物客など幅広い層に訴える街頭活動を、各地の自動車販売店協会などと協力し、それぞれ開催しました。街頭活動では自動車税制の現状を「不合理」と主張し、租税収入全体に占める自動車関係諸税の大きさや、国際標準との比較でも「極めて重い負担になっている」とアピールしました。

(北陸3県)

みんなで考えよう! クルマの税金

ご存知でしたか? 自動車には...

- 1 9種類・8兆円もの税金が課せられています。
- 2 国際的に見ても極めて重い負担になっています。最大32倍
- 3 不合理な「部分の関税率」や「Tax on Tax」といった仕組みが続いています。

クルマは生活に欠かせないのに...



(このチラシは街頭活動で配布されたものです)



京都市での街頭活動

JAF京都支部(森川莫臣支部長)は10月25日、自動車総連とともに、ドライバーの税負担の軽減や自動車税制の簡素化などを訴えるための街頭活動を実施。京都の繁華街、四条河原町の高島屋や京都マルイの前で要望内容を記載したチラシを配布しました。

(京都)

頭活動を行いました。自動車関連団体の職員らが参加し「クルマの税金抜本的に見直すべき」と書かれたのぼりを手に通行客に税負担の軽減の必要性を呼びかけました。

(旭川)

を呼び掛けるチラシ等を来場者に配布するとともに、現在の自動車税制への意見や要望をパネルに記入してもらった「マイオイスパネル」活動を実施、50人が意見要望を書き込みました。パネルは自動車ユーザーの生の声を訴える資料として活用しています。

(甲府)

JAF茨城支部(加藤敏彦支部長)は、JR水戸駅南口ペデストリアンデッキで県内自動車関係諸団体と自動車税制改正に関する街頭活動を実施しました。現状の説明や重い税負担の軽減

を訴えるチラシとウェットティッシュを300セット用意し、朝の駅利用者に配布しました。

(水戸)

JAF大阪支部(白土貴久支部長)は11月6日、府内の自動車関連団体とともにJR京橋駅(大阪市都島区)周辺で自動車税制改正に向けた街頭活動を実施しました。12団体から22人が参加し、啓発チラシを通行人に手渡して、ユーザーの税負担軽減と複雑な自動車税制の簡素化を訴えました。

(大阪)

あなたの安全運転とクルマの先進安全装備は

＼ セットでどうぞ！ ／



※ASV (Advanced Safety Vehicle) とは先進安全自動車のことです。

先進安全装備は、あなたの安全運転を支援するシステムです。
機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。



衝突被害軽減ブレーキ

クルマが障害物を感知して、警告やブレーキの補助動作を行います。



定速走行・車間距離制御装置

前方のクルマとの車間距離を保ちながら追従走行して運転をサポートします。



車線逸脱警報

車線をはみ出しそうになった時、警告音等で正しい位置に戻ることを促します。



後側方接近車両警報

死角になる斜め後方のクルマを検知し、危険を知らせます。



自動切替型前照灯

夜間走行時、対向車等の有無を検知しハイ/ロービームを自動で切り替えます。



ペダル踏み間違い時加速抑制装置

車両等の有無を検知し、誤ってアクセルを踏み込んだ際の急加速を防止します。



衝突被害軽減ブレーキ等を備えた「安全運転サポート車（サポカー）」の普及・啓発に取り組んでいます。

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館
[安全運転講座ページ] <http://www.anzen-unten.com>





Hondaは、車いすに乗ったまま後席に乗りができるN-BOX スロープ仕様などを展示、人気を集めました



トヨタとダイハツは合同で大規模ブースを展開しました。多彩なラインアップで幅広いニーズをカバーしています



ダイハツは介護業務支援の新サービス「らくびた送迎」をアピール。来場者が高い関心を示していました



ヤマハ発動機は未来の電動車いすをイメージしたスタイリッシュなデザインのコンセプトモデルを展示

少子高齢化を背景に 自動車メーカーも各社出展

アジア最大規模の福祉機器に関する展示会「第45回国際福祉機器展H.C.R.2018」(主催=全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会)が10月10~12日、東京ビッグサイトで開催されました。少子高齢化を背景に介護需要が高まる中、自動車メーカー各社もブースを構え、最新の福祉車両をアピール。来場者から高い注目を集めていました。

■様々な福祉機器を展示

この展示会は、日常生活から医療移動、教育、スポーツまで様々な福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模のイベントです。45回目となる今回は、15カ国・地域から621社・団体が出展し、約2万点の福祉機器が展示されました。展示面積も6万6千平方メートルと過去最大規模での開催となりました。3日間合計の来場者数は11万9千人でした。

■各自動車メーカー6社が最新型展示

「びた送迎」を紹介しました。同システムは介護事業者の送迎業務の支援を目的としており、車両の現在地把握や利用者の急な変更、同乗者の相性把握などが可能で、送迎計画の作成業務の負担軽減や送迎業務の効率化を実現します。会場でも高い関心を集めていました。

日産は「セレナ」ベースの車いす仕様車のコンセプトモデルを展示しました。アウトドアのイメージを強調したモデルで、楽しさを演出して個人ユーザーの開拓につなげる狙いです。

身体に障がいを持つ方々には移動手段も重要となります。このため自動車メーカー各社も例年出展しており、今回はトヨタ自動車、日産自動車、ホンダ、スズキ、ダイハツ工業、ヤマハ発動機の6社がブースを構え、最新の福祉車両を多数展示しました。

ホンダは「N-BOX」や「ステップワゴン」などの福祉車両を展示。ブース内では歩行訓練機器「歩行アシスト」などを実際に装着できる体験会も実施するなど、多くの来場者で賑わいを見せていました。

スズキは軽自動車を多数展示したほか、電動車いす「セリアカー」の試乗会も実施。ヤマハ発動機は低速モビリティのコンセプトモデル「YNF01」を初公開しました。高い走破性と先進的なデザインが注目を集めていました。

トヨタとダイハツはグループとして大規模な合同ブースを展開。「ハイエース」などの大型車から軽自動車まで国内最多となる多彩なラインアップを紹介しました。ダイハツは、10月から販売を開始した新たなデイサービス向け送迎支援システム「らく

CEATEC JAPAN 2018



前回は上回る人数が来場

つながる社会、共創する未来 コネクテッドカーや自動運転技術も展示

IoTやロボット、AI（人工知能）など先進技術が披露される「CEATEC（シーテック）ジャパン 2018」が10月16日から19日まで、幕張メッセ（千葉市美浜区）で開催されました。従来の家電見本市から「CPS（サイバーフィジカルシステム）／IoT（モノのインターネット）の総合展示会」に鞍替えして3年目。725社・団体（2017年667社・団体）が出展し、15万6063人（前年比39777人増、同2.6%増）が来場しました。コネクテッドカーや自動運転でハイテク技術の活用を進める自動車業界からも多数の出展がみられました。

トヨタ自動車が出展

自動車メーカーからはトヨタ自動車が出展。車載機器とスマートフォン（スマホ）アプリを連携させる技術「スマートデバイスリンク（SDL）」に対応したカーナビゲーションを12月から国内展開することを発表しました。

SDLは、スマホアプリを車内で安全に利用できるように、操作方法などを最適化する技術です。AI技術を活用した音声操作やカーナビへの最適表示で、スマホの利便性は最大限残したまま、事故のリスクを低減します。

スマホと車両連携

スマホアプリと車両を連動さ

車で8K放送も

映像と自車が撮影した映像を組み合わせ、前方車両の先が透けて見える技術を日本初公開。別の複数のサプライヤーではAIを搭載したカメラシステムを披露し、注目を集めていました。

せる技術は、米グーグルの「アンドロイドオート」、米アップルの「カープレイ」などが代表的です。これらに対し、トヨタやフォードモーターが推奨するSDLは、自動車メーカーの視点で安全性と操作性の両立が図られている点特徴です。イベント開幕日に視察に訪れた世耕弘成経済産業相もトヨタブースに立ち止まり、担当者の説明に熱心に聞き入っていました。

サプライヤーが不可欠

自動運転やコネクテッドカーの開発には自動車部品サプライヤーの存在も欠かせません。ある大手メガサプライヤーはV2V（車車間通信）を活用し、前方車両のフロントカメラで撮影し

クルマとは直接的に関係しないですが、今回のイベントでは大手電機メーカーが世界で初めて「8K」放送対応のテレビを発売すると発表しました。自動運転が実現すれば車内空間をより楽しもうとするニーズが高まると考えられており、車で8K放送を視聴する時代が来る可能性も十分あります。

「シーテックジャパン」で披露される技術や製品の中には、このように今はクルマと直接的な関係が無くとも将来的な活用が見込める技術を見つけることができます。非自動車業界の企業ブースで今後のクルマづくりのヒントを探る自動車メーカーや部品サプライヤー開発担当者の姿も見られました。

大型車の車輪脱落は許さない。

大型車に関わる私たちプロの使命です。



重大事故を未然に防ごう!

タイヤ・ホイールは、しっかり点検、正しく整備。



<p>1</p> <p>規定のトルクで 確実な締付けを</p>	<p>2</p> <p>50~100km 走行後はしっかり 増し締めを</p>	<p>3</p> <p>一日一回の 日常点検を</p> <p>とくに、気が付きにくい 左後輪は、重点的に点検を!</p>	<p>4</p> <p>ホイールに 適合した ボルト、ナットを</p>
-------------------------------------	-------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------

車輪脱落を防ぐ4つのポイント

詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ

▶ http://www.jama.or.jp/user/fall_off_wheel/car/index.html

国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る連絡会 日本自動車工業会 (いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラック) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会



全国から108作品の応募

福岡県の荻野佳子さんが最優秀賞に



最優秀賞

「高齢者の交通安全」
福岡県 荻野 佳子



優秀賞

「人生はおかわりできない」
東京デザイン専門学校 李 多顯



優秀賞

「飲んだら乗るな！」
東京デザイン専門学校 高山 結



優秀賞

「一杯だけ…が命取り」
東京デザイン専門学校 原 優風



日本自動車会館は10月17日、交通安全ポスター原画コンテストの表彰式を開きました。今年は全国から108作品の応募があり、高齢者の運転から卒業をテーマにした福岡県の荻野佳子さんの作品を最優秀賞、そのほかの3作品を優秀賞に選びました。

コンテストは、会館に入館する法人の社会貢献活動の一環として2007年から実施しています。今年は家族で広げる交通安全、高齢者の交通安全など四つをテーマに8月下旬から9月上旬まで作品を募集し、前年を上回る応募がありました。

表彰式は会館1階のくるまプラザで開かれ、選考委

員会委員長の永塚誠一日本自動車工業会副会長・専務理事が受賞者に賞状と賞金を手渡しました。

最優秀賞に選ばれた荻野さんの作品は、いつかは誰にも訪れる車の運転からの卒業を「失うことなく、新たなトラフィック・ライフの始まり」(本人の受賞コメントより)と、前向きに捉えた点が評価されました。

優秀賞はともに、飲酒運転の根絶をテーマにした東京デザイン専門学校の李多顯さん、高山結さん、原優風さんの作品が選ばれました。表彰式で3人は「受賞できて大変嬉しいです。これからよりいい作品を作るためのモチベーションになります」と喜びを述べました。

2018年 秋の叙勲・褒章

叙勲 元トヨタ自動車社長の渡辺捷昭氏に旭日大授章

元トヨタ自動車社長の渡辺捷昭氏が産業振興功績で11月3日に旭日大授章を受章

このたび、旭日大授章の栄誉を賜りましたことは、身に余る光栄でございます。

今回の受章は、日本はもとより世界各国のお客様をはじめ、多くの方々のご指導、ご支援を頂きながら、共に仕事に取り組むことができましたことの結果であり、皆様にあらためて感謝申し上げます。この栄えある受章を励みといたしまして、今後とも産業、経済、社会の発展にいささかなりともお役に立てるよう、引き続き微力を尽くして参る所存でございますので、何卒、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

元トヨタ自動車株式会社社長 渡辺 捷昭



《経歴》

わたなべ かつあき
渡辺 捷昭氏 昭和17年2月13日生

【学歴】

昭和39年3月21日 慶応義塾大学経済学部 卒業

【主な職歴】

昭和39年4月1日 トヨタ自動車工業(株) 入社
平成4年9月25日 トヨタ自動車(株) 取締役
平成9年6月26日 同 常務取締役
平成11年6月25日 同 専務取締役
平成13年6月27日 同 代表取締役副社長
平成17年6月23日 同 代表取締役社長
平成21年6月23日 同 代表取締役副会長

【主な民間団体歴】

自平成16年5月20日 (社)日本自動車工業会 理事

至平成20年5月14日
自平成20年5月15日 同 副会長
至平成22年3月31日
自平成22年4月1日 (一社)日本自動車工業会 副会長
至平成22年5月19日 (平成22年4月1日同上改組)
自平成21年5月28日 (一社)日本経済団体連合会 農政問題委員会 担当副会長
至平成22年5月27日
自平成21年5月28日 (一社)日本経済団体連合会 農政問題委員会 担当副会長
至平成22年5月27日
自平成13年5月17日 (社)中部経済連合会 副会長
至平成17年5月16日
自平成29年1月25日 国立研究開発法人科学技術振興機構 未来社会創造事業 事業統括

至現在
【審議会歴等】
自平成21年5月18日 経済産業省産業構造審議会 通商政策部会 部会長
至平成25年4月26日
自平成25年2月26日 文部科学省COI STREAMガバニング委員会 委員
至現在
【主な受賞歴】
平成20年1月30日 平成19年度省エネルギー実施優秀事例表彰、経済産業大臣賞受賞
平成21年4月17日 平成21年度知財功労賞、経済産業大臣表彰受章
平成21年11月3日 藍綬褒章受章(産業振興功績)

褒章 元トヨタ自動車副社長の新美篤志氏に藍綬褒章

元トヨタ自動車副社長の新美篤志氏が産業振興の功績で11月3日に藍綬褒章を受章

このたび、藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じております。

私は、昭和46年にトヨタ自動車に入社以来、一貫して生産技術、生産管理等、生産部門に携わって参りました。経済の急速なグローバル化が進む中で、海外生産の拡大と現地化を進める一方で、生産技術の革新を続け、国内生産の継続にも務めて参りました。この間、諸先輩並びに多くの関係者の方々のご指導とご支援を頂きながら、仕事に取り組むことができ、微力ながらも自動車産業の発展にいささかなりともお役に立てましたことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げる次第でございます。この栄えある受章を励みといたしまして、社会の発展に少しでも貢献できるようさらに精進を重ねて参る所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

元トヨタ自動車株式会社副社長 新美 篤志



《経歴》

にいみ あつし
新美 篤志氏 昭和22年7月30日生

【学歴】

昭和46年3月31日 名古屋大学工学部航空学科 卒業

【主な職歴】

昭和46年4月1日 トヨタ自動車工業(株) 入社
平成12年6月28日 トヨタ自動車(株) 取締役
平成15年6月26日 同 常務役員
平成17年6月23日 同 専務取締役
平成21年6月23日 同 代表取締役副社長

平成14年6月28日 トヨタモーターノースアメリカ(株) 上級副社長
平成21年6月25日 同 取締役
平成23年4月1日 同 取締役副会長
平成14年6月28日 トヨタモーターマニファクチャリングノースアメリカ(株) 取締役社長
平成18年4月1日 トヨタモーターエンジニアリングアンドマニファクチャリングノースアメリカ(株) 取締役会長
平成19年6月26日 同 取締役
平成21年6月25日 同 会長兼CEO

平成24年4月1日 同 取締役会長
【主な民間団体歴】
自平成25年4月16日 中部経済同友会 代表幹事
至平成28年4月25日
自平成21年6月1日 (学)トヨタ神戸整備学園 専門学校トヨタ神戸自動車大学校 代表理事長
至平成25年5月21日
【主な受賞歴】
平成22年11月26日 第4回ロボット大賞、経済産業大臣賞受賞

地方版図柄入り ナンバープレート

～つけて走って広げよう、地域の魅力!～

事前申込
開始日 2018年
9月10日(月)から

交付
開始日 2018年
10月1日(月)から



※画像は寄付金有りの場合のナンバープレートです。

ご自分でWEBからお申し込み または お近くのディーラー・整備工場に相談

✓ 地方版図柄入りナンバープレートの導入地域(全国41地域)において申込み可能

✓ 新車でも、使用しているクルマでも取り付け可能

使用している車のナンバーは、今の番号が変わらずに交換可能です。(一部、番号変更が必要な場合があります。)

✓ 寄付金は導入地域の交通改善や観光振興などに活用

ナンバープレートの交付料金の1,000円以上の寄付をしていただきますと、フルカラーのナンバープレートを選択できます。

▶ WEBからのお申し込み・詳細はこちら <http://www.graphic-number.jp>



地域の風景や観光資源を図柄とした 地方版図柄入りナンバープレートは、 ”走る広告塔”として、地域の魅力を全国に発信します。 この機会に地元のナンバープレートをつけて走って、 地域の魅力を広げましょう!



お申込み方法

ご自分でWEBから申し込むか、
お近くのディーラー・整備工場にご相談ください。

- 新車・中古車購入時はもちろん、現在お乗りのクルマの車検時などの際に同じ番号でいつでも地方版図柄入りナンバープレートを取り付けることができます。(一部、番号変更が必要な場合があります。)
- ナンバープレートの交付料金は地域により異なります。詳しくは、最寄りの運輸局・運輸支局等にお問い合わせください。
- ナンバープレートの取り付けを依頼する場合、手数料がかかります。詳しくは、お近くのディーラー・整備工場にお問い合わせください。
- 1,000円以上の寄付をしていただきますとフルカラーの図柄入りナンバープレートを選択することができます。寄付金は、(公財)日本デザインナンバー財団が管理し、導入地域における交通改善、観光振興などに資する取組みに充てられます。ナンバーの申込みとは別に、直接、寄付のみを申し込むことができます。詳しくは財団HP <http://www.d-number.or.jp> をご覧ください。
- 自動車の区分を明確化すべく、事業用の登録自動車の図柄入りナンバープレートには「緑色」、軽自動車の図柄入りナンバープレートには「黄色」の縁取りを施します。
- ナンバープレートの使用終了後は、不正使用防止のための穴を開けた上で、取り外した地方版図柄入りナンバープレートを記念に保存することができます。

▶ WEBからのお申込み・詳細はこちら
<http://www.graphic-number.jp>



地方版図柄入りナンバープレート

登録自動車(自家用)

盛岡599
さ20-46

寄付して頂く場合
盛岡599
さ20-46
フルカラー

寄付しない場合
盛岡599
さ20-46
モノトーン

登録自動車(事業用)

盛岡599
あ20-46

寄付して頂く場合
盛岡599
あ20-46
フルカラー

寄付しない場合
盛岡599
あ20-46
モノトーン

軽自動車(自家用)

盛岡589
ろ20-46

寄付して頂く場合
盛岡589
ろ20-46
フルカラー

寄付しない場合
盛岡589
ろ20-46
モノトーン

「第31回国際電気自動車シンポジウム・展示会(EVS31)&EV技術国際会議2018(EVTeC2018)」開催

世界最大のEVシンポジウム

自動車メーカーや一次サプライヤーが提案

10月1~3日に神戸コンベンションセンター(神戸市中央区)で電気自動車(EV)の世界最大のシンポジウム「第31回国際電気自動車シンポジウム・展示会(EVS31)&EV技術国際会議2018(EVTeC2018)」が開かれました。国内外から約200の企業や団体が出展し、EV開発に向けた研究や技術、新製品などを披露しました。9月30日は台風の影響で中止になりましたが、3日間で約2800人が来場するなど、EVへの関心の高さが見て取れました。



駐車場と超小型EVを活用した非接触充電設備

■「アネックス1」に日本で初対応

EVやプラグインハイブリッド車(PHV)の車載部品評価設備などを自動車メーカーや一次サプライヤー(ティア1)に提案する企業が目立ちました。

米国の第三者認証機関の日本人は、車載部品を評価する固定型ダイナモ搭載電波暗室を紹介しました。モーターやインバーターなどに負荷をかけた状態でEMC(電磁両立性)試験を行えるもので、国際規格のCISPR25・2016Ed.4アネックス1に日本で初めて対応しています。来年2月まで予約が入るなど引き合いが強く、部品メーカーの関心の高さがうかがえました。

自動車部品の検査設備などを製造・販売する企業は、インバーターの電子部品などを検査する高性能パワーサイクル試験機を

展示しました。年間200件以上のパワー半導体の試験で培った技術を結集したもので、多様なパワー半導体に対応します。

■多彩なEV充電システム展示

各企業のアイデアが詰め込まれたEV充電システムも会場に多数並びました。

大手部品メーカーは、超小型EV用のワイヤレス充電システムを展示しました。駐車場側に送電コイルを、車側に受電コイルを搭載し、非接触充電する仕組みです。自治体や事業者の関心が高く、今後は実証実験する予定で、自動運転によるパーレーキングでの展開も検討しています。

自動車の電装部品やCVT部品を製造・販売する関西のサプライヤーは、自動

で充電コードを巻き取る独自構造の充電スタンドを提案しました。充電器を使用後、コネクタを充電器本体のコネクタ受けに差し込むと、自動的にケーブルが本体の中に巻き込まれる仕組みで、商業施設を中心に普及が進んでいます。

日本開催は12年ぶりとなったEVS。出展者からは「展示内容は以前と全く違うものだった」(大手バッテリー部品メーカー)、「EV事業の規模は小さいが、将来を見据えて初出展した」(EV充電スタンド製造事業者)といった声が挙がりました。各企業が自動車メーカーやティア1にアピールした独自の技術や研究成果は、海外の来場者からも注目を集めていました。



自動でコードを巻き取るEV充電スタンド



EVの生命線であるインバーターの部品向け高性能パワーサイクル試験機

大切な愛車、
しっかり守ってね♡

大切な愛車を盗まれないように、盗難防止対策をしましょう。

1. イモバイザーの装着

偽造キーの対策に、IDコードを活用したイモバイザーが効果的です。



2. 車を離れる際のドアロック

短時間でも車を離れるときは、ドア・窓をしっかり施錠しましょう。



3. 盗難防止機器の活用

バー式ハンドルロックや警報装置などを搭載しましょう。



4. 貴重品の置きっ放し厳禁

車内に貴重品を置きっ放しにしたり、スペアキーの車内保管は厳禁です。



5. 自動車部品にも盗難防止対策

ナンバープレートやタイヤ・ホイール等は、盗難防止ネジなどで固定しましょう。



6. 安全な駐車場選び

駐車場は夜間でも明るく、防犯設備がしっかり充実した場所を選びましょう。



Special Contents



久松郁実の
怒り顔がキュンとくる!

You Tube

動画を公開中!



詳しくは、「STOP THE 自動車盗難」のウェブサイトへ。 <http://www.car-tounan-boushi.jp>

STOP THE 自動車盗難

検索

警察庁 財務省 経済産業省 国土交通省

一般社団法人日本損害保険協会 一般社団法人日本自動車工業会 全国共済農業協同組合連合会 一般社団法人全国警備業協会 公益財団法人全国防犯協会連合会 一般社団法人全国レンタカー協会 一般社団法人全日検
一般社団法人全日本駐車協会 一般社団法人日本貨物検査協会 日本自動車車体整備協同組合連合会 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 一般社団法人日本自動車販売協会連合会 日本自動車輸入組合
一般社団法人日本自動車連盟 日本中古車輸出業協同組合 一般社団法人日本中古自動車販売協会連合会 公益社団法人日本防犯設備協会 一般社団法人日本損害保険代理業協会 一般社団法人日本オートオークション協議会



モビリティがもたらす持続可能な開発

ラオスにきている。海岸が無い内陸国である。周囲は中国・タイ・ベトナム・カンボジア・ミャンマーといった新興国に

囲まれている。ラオスが発展するためにはこれら諸国との交易が鍵となる。それで高速道路建設や鉄道建設に大きな期待が寄せられ、日本や中国を初めてして多くの国が援助をしている。

■クルマ業界のSDGは

さて昨今の日本では持続可能な開発目標（SDG）がキーワードになっている。ではクルマ業界はどうすれば持続可能な開発に寄与できるか。実は最大の寄与は、クルマの本来の機能であるモビリティそのものであると気づいた。

ラオスは東南アジアで最も所得水準が低い。が、タイ・プラスワンな

ファンとして、製造業も立地しつつある。工業団地の日本企業を訪ねると、多くの女性労働者が働いていた。これまで

は農村で自給自足的な生活をしてきたが、今では縫製や電機部品の組み立てに従事している。

通勤の足は会社が提供するバスであり、朝夕に村々を巡回している。道が未舗装な場合はバスに代えてトラックを使うという。

ラオスにはまだ産業の広がりがないので、原材料はタイなどから輸入している。また組み立てが終わった製品は、やはり外国へ出荷している。このためには勿論トラックや鉄道を使う。

■「移動の自由」が人権

人間の基本的な人権として自由がある。その中の大事な1つが経済的自由である。人がそれぞれの能力を活かして経済活動を営むことは、人がらしく生きるために必要な権利である。

今回改めて気付いたことは、経済的自由は、実は「移動の自由」に支えられている、ということだ。それは通勤の自由であり物流の自由である。この移動の自由があるからこそ、ラオスは手先の器用な若者を武器にして、世界の製造業ネットワークに参加できる。移動の自由は、国際的な分業も可能にしている。分業は経済成長の源泉である。分業することで、人々はそれぞれが最

も得意とする仕事に従事できるからである。

■クルマが移動手段を提供

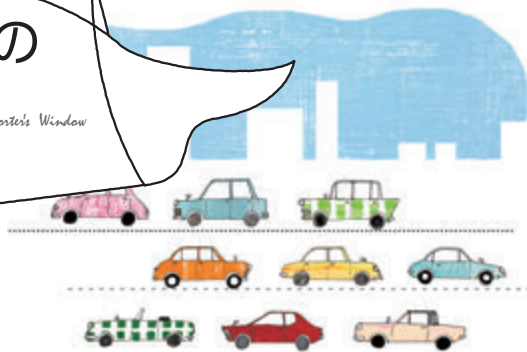
ラオスの将来は、移動の自由をどこまで確保できるかということに掛かっている。内陸国が発展するためには自動車が必要だ。自動車業界の使命は、安く信頼できる移動手段を提供し続けることにある。

もちろん、技術だけの問題ではない。国境での出入国手続きを簡素化した、関税を引き下げたりすることで、制度面での移動のコストを下げることも重要だ。これは政府の使命である。

■安くて信頼のモビリティが

いま自動車業界には、EVや自動運転等、様々な波が押し寄せている。地球温暖化や大気汚染等への対策も求められている。だがその一方で、安く信頼できるモビリティを確保するという原点こそが、この世界で最も貧しい人々にとっては、相変わらず最も重要な課題である。新しいテクノロジーを活用して、これを達成することは出来るだろうか。安く信頼できるモビリティが実現するならば、それだけラオスの人々は豊かになれる。

profile 固体物理学を専攻。地球温暖化およびエネルギー政策を専門とする。国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）で活動。2021年刊行予定の第6次報告では統括執筆責任者として「イノベーションと技術開発・移転」の章を取纏める。地球温暖化にはリスクはあるが、行き過ぎたCO2削減も問題ありと考えている。著書に「地球温暖化とのつきあいかた」等。また「地球温暖化問題の探究——リスクを見極め、イノベーションで解決する」を近刊予定。



上毛新聞社

みやむら けいすけ
宮村 恵介

自動車産業と群馬経済……………

⊙上毛新聞が発行されている群馬県は、公共交通が弱いこともあり、生活の足として自動車が欠かせない。1人1台の自動車保有が当たり前の上、運転免許の保有率も全国一で「自動車王国」とも称される。日常的に自動車と接しているため、弊社内にも車好きが多い。自作パーツで改造を楽しみ、クラシックカーに乗る先輩や、外車だけを乗り継ぐと決めた先輩など、それぞれがそれぞれの自動車ライフを楽しんでいる。私自身は諸先輩の足元にも及ばず、義兄が店長をしているディーラーで新型車を試乗させてもらうぐらい。走行距離が15万^{キロ}を越えた愛車をいつ乗り換えるか、財布と相談している。

⊙そんな群馬県は、経済面で自動車産業に支えられている。製造業が盛んな県東部の太田市には年間70万台を製造する自動車工場があり、雇用や納税などを通じて地元経済を潤している。桐生市にも自動車メーカーの協力企業が多数あり、群馬県の製造品出荷額等に占める輸送機器関連の割合は実に4割に達している。

⊙記者歴15年の私が駆け出しだった2007年、太田市の隣にある大泉町の支局に赴任した。当時は日本経済も好調で、地元の自動車工場はフル稼働。太田市と大泉町にまたがるモータープールに新工場建設の話が持ち上がり、雇用や固定資産税などへの期待の声が上がった。しかし、その直後にリーマンショックが発生し、極度の円高が進行。輸出産業は苦境に立たされ、新工場の計画は

立ち消えになった。大泉町には電機メーカーの生産拠点もあり、大量の労働者が解雇され、夜の街に出る人は目に見えて減り、町全体が沈んだ雰囲気になった。

⊙2009年に大泉町の支局を離れ、2012年に太田市の支局に戻ると、状況が一変した。安倍政権が「大胆な金融緩和」など円安を誘導する政策を導入したことに、地元自動車メーカーの米国販売の好調が重なり、地元経済はV字回復。雇用環境も急速に改善し、人手不足を補うように中国やベトナムの外国人実習生が目立つようになった。夜の街も活気を取り戻し、駅周辺の再開発で、地価も上昇。市には想定外の法人住民税が入り、長年の懸案だった塩漬けの土地を精算し、メーカーからの数億円の寄付を受け、市営球場も改修した。今でも、当地の部品メーカーの経営者からは「人手不足で大変」との声が上がり、経済の好循環は続いている。

⊙私が取材するネタのほとんどは群馬県関係だが、そんな狭い範囲でも、地方の自治体や市民が、グローバル経済とつながっていることを実感してきた。コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化(CASE)の開発で、IT企業を巻き込んで、大変革期を迎える自動車業界。裾野の広い自動車産業の興亡は地方経済の行方に直結する。いち自動車ファンとしても、地方紙の記者としても、自動車業界がどう変わっていくのか、目が離せない……………



TOYOTA GAZOO Racing、 WRC復帰2年目で マニファクチャラーズタイトルを獲得!!

11月18日(日)、2018年FIA世界ラリー選手権(WRC)第13戦ラリー・オーストラリアが行なわれ、TOYOTA GAZOO Racing World Rally Teamのヤリ・マティ・ラトバラ/ミーカ・アンティラ組(ヤリスWRC #7号車)が優勝。チームはWRC復帰2年目でマニファクチャラーズタイトルを獲得。



豊田 章男(チーム総代表)

ラトバラ選手、アンティラ選手、ラリー・オーストラリア優勝おめでとう! 苦しんだ今シーズン、最後にポディウムの頂点に立つ姿を見ることができて、本当に嬉しかった。そして、その勝利でTOYOTA GAZOO Racing WRTのマニファクチャラーズタイトルが決まりました。

FIA世界ラリー選手権へ18年ぶりに復帰し、2年目の挑戦にしてこんなにも素晴らしい結果を得られたこと、チームの総代表として最高の気持ちです! この栄冠を勝ち取るためにヤリスを強くし続けてきたトミ・マキネンと、彼を支えてきた全てのチームメンバー、そして、そのヤリスを何があってもゴールまで走らせ続けてくれた6人のドライバー、コ・ドライバー達に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう! そして、おめでとう!

声援を送り続けてくださったファンの方々、心ひとつに戦ってくださったパートナーの皆様ともこの喜びを分かち合えたこと、本当に嬉しく思います。支えていただき、ありがとうございました。

(TOYOTA ホームページより抜粋)